

明倫短期大学研究会講演抄録

当研究会は2000年度より、歯科衛生士学科研究会から発展して明倫短期大学研究会となった。歯科技工士学科、歯科衛生士学科、専攻科、附属診療所を統合した研究会として生まれ変わったことは、当大学の将来を考えても大きな利点をもたらすことは間違いないであろう。さらに、この研究会を基礎に学内学会が誕生するのも間近と思われる。(文責 世話人 福島祥紘)

第35回：2000年1月13日 (木)

咬合と歯列

長谷川 成男 教授 (歯科技工士学科)

歯は、咬合力が作用していない安静時には隣在歯との間にわずかな間隙をもっていて、歯槽骨内で歯根膜の血管に由来する脈動を示している。そして、機能時には上下顎のすべての歯が歯槽骨内へと押し込まれながら、歯列弓の幅径を狭める方向へ変位して、隣接歯間部は間隙をなくし、隣接歯同士は緊密に接触して、食片圧入に備えるとともに歯列としての連携を組んで強い咬合力に対処している。

第36回：1月27日 (木)

アルツハイマー性痴呆

福島 祥紘 教授 (歯科衛生士学科)

老人介護に携わる方々を対象として、本邦でも増加の一途を辿っている「アルツハイマー性痴呆」について、血管性痴呆と比較しながら、その発症の仕方、遺伝子の話、神経細胞の変性過程、 β アミロイドの話、臨床診断の方法、治療法などについて、現在分かっている範囲での最新情報をやさしく解説をした。

PMTCの臨床応用

杉田 英里、中野 奈織 歯科衛生士 (附属診療所)

平成12年4月より、明倫短大附属歯科診療所では、PMTCの導入を予定している。PMTCは歯牙一本一本のプラーク完全除去とフッ素塗布を行う。この他にも歯肉のマッサージ効果や歯面の搔傷を最小限におさえた研磨など利点は数多くある。しかし欠点として自費診療であること、が上げられる。患者に対しモチベーションを充分に行い、デンタルIQの向上を計り、今後より多くの患者にPMTC受診を考えている。

第37回：3月9日 (木)

変色歯の漂白治療

金子 潤 助教授 (歯科衛生士学科)

変色歯の漂白法は歯質保存型治療法で、生活歯に行う Vital Bleaching と失活歯に行う Nonvital Bleaching とに大別される。Vital Bleaching の分野では、ここ10年余りの間に Hi Lite 法や Home Bleaching などの新しい方法が次々と導入され、飛躍的な進歩を遂げてきた。演者はおもに FAP Whitening 法で漂白を行っている。一方、Nonvital Bleaching では1963年に発表された Walking Bleach 法が現在でも広く用いられており、漂白効果が高い。

第38回：3月23日 (木)

介護保険のその後 —4月1日スタートに向けて—

本間 和代 助教授 (歯科衛生士学科)

我が国は、新しい社会保障制度改革として介護保険制度を発足させるため、長い時間をかけて検討を重ねてきたが、施行まで10日足らずとなり、認定申請からサービスが利用者に提供されて、サービス事業者に介護報酬が支払われる一連の過程が体系づけられた。我々が今迄対応してきた医療保険との違いは、(1) 報酬単価および設定基準 (2) 給付管理業務 (3) 契約書 (4) コンピュータ事務処理他であり、今後、介護保険制度の中で歯科医療従事者がどのように係わって責任を果たしていくかが重要な課題である。

本学歯科衛生士学科学生の 食生活の現状

平澤 明美 講師 (歯科衛生士学科)

学生指導の際、健康管理の面で、特に朝食について指導することが多かった。そこで今回、歯科衛生士学科平成11・12年度生に食事と間食についての調査を実施し、国民栄養調査の結果と学生の食生活の現状を比較した。国民栄養調査によると、近年朝食の欠食率が上昇し、夕食時間が遅くなり、間食の摂取が増えている。この状況は学生にも同じ傾向が見られた。しかし、本学の場合臨床実習が食生活に影響を与えているようである。